

■静岡市清水港周辺海洋文化拠点施設基本構想検討会議の開催

基本構想の策定にあたり、有識者、地域関係者から意見を伺うため「静岡市清水港周辺海洋文化拠点施設基本構想検討会議」を下記の通り開催しました。

●静岡市清水港周辺海洋文化拠点施設基本構想検討会議

第1回 平成29年1月 6日（金）13:00～15:00 旧青葉小学校会議棟3-A会議室

検討事項：基本構想の骨格等について

第2回 平成29年2月10日（金）13:30～16:30 旧青葉小学校会議棟3-A会議室

検討事項：基本構想の素案、施設のコンテンツ等について

第3回 平成29年3月10日（金）13:30～16:30 旧青葉小学校会議棟3-A会議室

検討事項：基本構想案のとりまとめ

静岡市清水港周辺海洋文化拠点施設基本構想検討会議名簿

(1～5五十音順)

	役 職	氏 名	備 考
1	東海大学海洋科学博物館 館長	秋山 信彦	海洋研究
2	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 理事	篠崎 資志	海洋研究
3	ハンズ・オン プランニング 代表	染川 香澄	博物館
4	福山大学 生命工学部 海洋生物科学科 教授	高田 浩二	博物館 ◎座長
5	静岡商工会議所 副会頭	村上 光廣	地域経済・ まちづくり
6	【静岡市】企画局 政策推進統括監	中島 一彦	静岡市 ○副座長
7	【静岡市】経済局 局長	赤堀 文宣	静岡市

※オブザーバー

	静岡県交通基盤部港湾局 局長	有本 彰男	港湾管理者
--	----------------	-------	-------

第1回静岡市清水港周辺海洋文化拠点施設基本構想検討会議

1. 日時：平成29年1月6日（金）13時00分～15時00分
2. 場所：静岡市 旧青葉小学校会議棟 3-A 会議室
3. 検討事項：基本構想の骨格等について
4. 意見概要
 - (1) 海洋文化拠点の対象とするエリアについて
 - ・ 海洋文化拠点施設の対象として「海洋」ではなく「駿河湾」とするコンセプトがわかりやすい。
 - ・ 一つの都市でこれだけの高低差を持っているところはないので、施設のコンセプトとして南アルプスから深海とするとよい。駿河湾に限定した場合、海洋に関して広く扱っているということが見えにくい。
 - (2) 海洋文化拠点施設の方向性について
 - ・ 限られた敷地の中で、人材育成、産業振興、にぎわい創出などのコンセプトを全て盛り込むのではなく、目的に適う施設をつくるために本当に必要な機能をつくることが望ましい。
 - (3) 学校教育との連携について
 - ・ 博物館をひとつの学校として活用することが考えられる。特色のある教育プログラムを展開することが可能である。
 - ・ 学校教育との連携では、様々な科目で海洋に関わりがあるものを活用していくことが考えられる。
 - (4) 周辺施設等との連携について
 - ・ 施設をつくる場合、施設内部の展示について考えがちであるが、周辺の海洋やビーチを活用したアウトリーチも重要である。
 - ・ 海洋文化拠点ということを考えると、周辺施設や地域資源との連携は不可欠であり、周辺の会議室などとも連携することが考えられる。

以上

第2回静岡市清水港周辺海洋文化拠点施設基本構想検討会議

1. 日時：平成29年2月10日（金）13時30分～16時30分
2. 場所：静岡市 旧青葉小学校会議棟 3-A 会議室
3. 検討事項：基本構想の素案、施設のコンテンツ等について
4. 意見概要
 - (1) 研究教育支援機能について
 - ・ 研究教育支援機能としては、セミナールームや理科室程度の実験体験ができる部屋を用意し、展示と連動した教育活動や研究発表を行うことが想定される。専門的な研究を海洋文化拠点施設で行うということではない。
 - ・ 研究はサイエンスに限らず、新たな教育手法や展示開発など、広い意味で研究と考えることができる。
 - (2) 東海大学海洋科学博物館（三保地区）の役割について
 - ・ 海洋文化拠点施設ができる場合、三保地区にある現在の海洋科学博物館を研究の拠点として活用していくことが考えられる。
 - ・ 海洋文化拠点施設で展示を行うのに対し、遺伝子の保管などの収蔵や研究、学芸員の養成などは、三保地区の研究拠点で担うことが考えられる。
 - (3) JAMSTEC との関わりについて
 - ・ 展示機能やアウトリーチ、教育機能があるが、これらのコンテンツは JAMSTEC などの教育研究機関と連携していくことが望ましい。
 - ・ JAMSTEC は資源やアイデア、構想は持っているものの、公開する場が限られている。この施設と JAMSTEC の両方にとって win-win となる連携の仕組みを構築していけるとよい。
 - ・ JAMSTEC にとって、今後、最先端の研究の広報の場として活用してもらえるとよい。

以上

第3回静岡市清水港周辺海洋文化拠点施設基本構想検討会議

1. 日時：平成29年3月10日（金）13時30分～16時30分
2. 場所：静岡市 旧青葉小学校会議棟 3-A 会議室
3. 検討事項：基本構想案のとりまとめ
4. 意見概要
 - (1) 駿河湾に着目することについて
 - ・ 駿河湾の特徴である、静岡県の高差や、淡水から深海までに着目するとよい。
 - ・ 静岡の日の出地区とする理由は、駿河湾のゲートウェイシティであること、東海大学など海洋研究機関が立地していることがある。駿河湾に絞り込んだ海洋文化拠点施設とするとよい。
 - ・ 駿河湾を通して海洋・地球を学ぶ場とするとよい。
 - (2) ターゲット層について
 - ・ 教育+楽しさ（エデュテイメント）は想定されるターゲット層にとって必要な要素である。受け入れ側でターゲット層を縦割りの見る必要はない。並列ではなくメリハリも必要。
 - ・ ターゲット全てを均等にとということではないが、ターゲットの特性を踏まえた施設の特性を考えていくことは重要。
 - (3) 展示開発機能について
 - ・ 学芸員は、展示と来館者との接点として重要な役割であるが、展示デザインについてはあまり得意ではない。このため、展示開発に特化したチームを設けることが望ましい。
 - ・ 海外からの来館者も増えるので、国際部が必要となる可能性がある。インバウンドを一手に引き受ける部門を置くことも考えられる。
 - ・ コストの問題はあるが、学芸員が最先端の研究をしながら展示を考えていくことが必要である。展示開発だけを考えるのではなく、博物館や水族館を一体として考えるべきである。
 - (4) ウォーターフロント開発との連携について
 - ・ 施設内で閉じるものではなく、地域に開いていたり、来訪者がゆったりできる機能があると入りやすい。
 - ・ 日の出地区はJR清水駅から離れておりアクセス性は良くないが、足を運びたくなるような施設をつくることで、交通手段も整備されていくのではないかと。
 - (5) 基本構想案の取りまとめ
 - ・ 基本構想案については大筋の理解は得られたため、今回の会議での意見も踏まえ、最終案の修正、取りまとめは、座長と事務局に一任する。

以上